

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	リーディング4	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース(ベース)	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要資料はプリントなど配布する				
担当教員	田中 亮輔	実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン		
<b>学習目的</b>					
<p>臨時記号や調合などの基礎知識はもちろん、自身の楽器の表現可能音域などをしっかりと把握していく。また楽曲の構成など全体が見渡せるようにしていくと同時にアンサンブルにおいて自分がどのような演奏をするのが良いかを感じ取ってもらう。</p> <p>リードシート、実音記譜譜面、マスターリズム譜等、プロフェッショナルが現場で使用する譜面を用いて現場対応がすぐにできることを最大限の目的とする。ポピュラー音楽に特化したものだけでなく、幅広いジャンルに対応できるようになることが重要である。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>譜面をしっかりと読むと同時に様々なジャンルの音楽と接し、譜面にある必要最低限の情報からの表現力の幅を広げていく。</p> <p>特にコードネームとハーモニックリズムのみのリードシートからの楽曲の理解度を深められるようになることを目標とする。</p> <p>現場対応の譜面を使用することにより、卒業後もセッションサンサンブルで対応できる読譜力を身に付けることが重要である。</p>					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	<p>課題とする音源・譜面から構成などを説明。また、ジャンルの違いによる演奏のアプローチについても解説。</p> <p>フレーズの音楽的分析、先人たちの有名フレーズを習得し、さらに発展させる作業も行う。</p> <p>読譜と累積した（聞いて習得したフレーズ）をオリジナル楽曲に反映させていくことも行う。</p>				
注意点	<p>五線紙は必ず用意し、常にメモは取る。第三者が見てすぐに理解できるような明確な表記を心がける。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受けることはできない。日々の反復練習を欠かさず行う事。配布資料・譜面は毎回必ず持参すること。興味のあるフレーズは記録すること。</p>				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
<b>授業計画 (1回～15回)</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	フレットボードの関係性	調号によるフレットボードの限界値を理解していく			
2回	音価のコントロール	アーティキュレーションを主体とした表現力をトレーニングする			
3回	リズムックバリエーション	リズム譜を用いて多種のリズムを演奏しパターンを把握する			
4回	譜面上での楽曲の展開について (1)	各種反復記号についての理解			
5回	譜面上での楽曲の展開について (2)	既存曲を用い、反復記号を読み解く			
6回	譜面上での楽曲の展開について (3)	既存曲を用い、より複雑な反復記号を読み解く			
7回	コードネームについて (1)	コードネームから使用可能な音を把握する			
8回	コードネームについて (2)	分数コードなどより複雑なコードから使用可能な音を把握する			
9回	ジャンルによるアプローチ (1)	さまざまな音楽ジャンルにおける演奏の仕方を考える			
10回	ジャンルによるアプローチ (2)	既存曲から、さまざまな音楽ジャンルにおける演奏を追求する			
11回	譜面の作成 (1)	既存曲を用い、どのように表記すれば簡潔かを考える			
12回	譜面の作成 (2)	既存曲を用い、どのように表記すれば第三者が理解し易いかを考える			
13回	楽曲全体の表現力①	楽曲構成の理解とダイナミクスのコントロールを把握する			
14回	楽曲全体の表現力②	複雑なコード進行におけるスケールの理解、解釈			
15回	後期まとめ	全体の総まとめ			